

いまだきの歴史

一番新しい日本のページ

新燃料本格実用化!!

京都議定書発効の誇りを懸けて、
バイオディーゼル車の試験運用開始!!

燃料の品質向上のカギは
食材にあった?

天然車えびも揚げた
廃油使用

同じく
ちくわ



使い終わった天ぷら油などを精製したバイオディーゼル燃料は、軽油に代わる新しい燃料として全国でさまざまな試験が行われている。京都市交通局も2000年からバイオディーゼル燃料で走る市バスの運行を推進してきたが、5月15日から家庭から出た廃食用油を精製したバイオディーゼル燃料100%を使った市バスの試験運用を開始した。同燃料がエンジンやホースなどにどのような影響を与えるかを2年間調査した後、本格的にバイオディーゼル市バスの運行に踏み切る予定だ。京都市は伏見区に独自のバイオディーゼル燃料を精製するプラントを持っていて、現在年間150万リットルを生産中。これらを活用してバイオディーゼル市バスを運行すれば、軽油使用時に比べて年間4000トン以上の二酸化炭素軽減が実現するとか。京都議定書を締結したにも関わらず、環境への取り組みが立ち後れた感のある京都だけに、早く本格的なバイオディーゼルバス運行に期待したい。

なかなか減らない家庭ゴミに改革!
ついに京都市が有料指定袋制を導入

ゴミ袋有料化

京都市は「脱温暖化社会」「循環型社会」の構築の一環として、家庭から出るゴミの総排出量削減目標を達成するため、ゴミの発生抑制に効果的な有料指定袋制を10月から導入する。これは家庭ゴミと、缶、ビン、ペットボトルの資源ゴミの2種の定期収集ゴミを対象としたもので、市指定の有料ゴミ袋に入れられたもののみを回収するもの。有料ゴミ袋は家庭ゴミ用45リットルのものが45円、30リットルが30円、10リットルが10円、5リットルが5円(いずれも1袋の値段)、資源ゴミ用は45リットルが22円、30リットルが15円、20リットルが10円で、スーパーやコンビニなどで販売される。市民ほとんどにこのルールが浸透するのは少し時間がかかるかもしれないが、市民の間でゴミを減らそうという意識が高くなるのは間違いないだろう。できれば廃食用油を一定量以上出した人には有料ゴミ袋を進呈とか、特典めいたものも設定してくれるとなお嬉しいのだが…。



消える名器

ユーザの安全確保を考えた末の法律も
一部の人にとっては悪法になるジレンマ。

電気用品安全法施行により、技術基準に適合したことを証明するPSEマークがついていない電気用品の販売が禁止になった。といってもいきなり適用するわけにはいかないで、品目ごとに5、7、10年間の経過措置期間が設けられている。今年の3月末には電子楽器の経過措置が終了。これに憤慨したのはミュージシャンたち。往年の名器と言われるシンセサイザーやアンプ、リズムマシンなどが流通しなくなるからだ。多くの著名ミュージシャンがこの法律に対して意義を申し出た結果、「事業者が自主検査を行い、新たにPSEマークを付すことができる」「抜いに手慣れた者へ販売することで安全が十分に確保できる場合、経済産業大臣の特別承認を受けて販売することができる」といった特別措置が定められた。ビンテージ楽器ファンはひと安心だが、昔のアンプやPA機器の中にはコンディション次第で危険なものもある。「安全な電気製品の使用を促すため」というこの法律の目的を考えれば、「悪法」とは一概に言えないと思うのだが…。取扱者の知識と技術に期待するしかない。



文◎大塚 祐希

1968年生まれ。広告代理店などでコピーライター、プランナーを経て、1995年、大塚祐希事務所を開設。現在は執筆活動の枠を雑誌や機関紙などにも広げ、そのジャンルは国内外の文化や時事問題、スポーツ、サイエンスなど、多岐にわたる。最大の関心事はなぜか不老不死。
HP●<http://www1.ocn.ne.jp/tsukapon/>



イラスト◎両口 和史

1967年京都市生まれ。京都精華大学美術学部 ビジュアルコミュニケーションデザイン学科卒。1991年よりフリーとして活動し、1998年には「QUATRE ILLUSTRATION」を結成。オフィスを京都の北山から琵琶湖の湖畔に移し、様々なメディアのイラストを手掛けている。
HP●<http://www.d1.dion.ne.jp/ryoguchi>